

## 会議要旨書

会議名	令和7年度第1回三鷹市史編さん委員会
日 時	令和7年11月18日(火) 18時30分～20時30分
場 所	三鷹市役所本庁舎3階市長公室
出席委員 (10人)	土屋宏副市長 Steele, Marion William 高田知和 椿田有希子 中野達哉 馬場憲一 森澤茂量 福野明子 保坂一房 本郷和人
欠席委員 (1人)	久保純子
行政職員 (5人)	スポーツと文化部長 大朝摂子 スポーツと文化部調整担当部長・スポーツ推進課長 平山寛 生涯学習課長 八木隆 生涯学習課生涯学習係長 森宏樹 市史編さん担当主査 下原裕司 同主事 中峰結
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴人数	1人
開会	
1 委嘱式	河村市長から、委嘱状の交付を行った。
2 委員紹介	委員一人ひとり、自己紹介を行った。
3 市長挨拶	
【河村市長】	錚々たる委員の先生方、色々な形で三鷹市に関わってきた方、歴史の様々な分野に詳しい皆さん、市史編さんに携わってきた先生もおり、頼もしく思う。ぜひお力を貸していただきたい。 三鷹市制施行80周年時に全部が出来上がるとは考えていない。事業は継続的に続けていかなければいけない。 自治体として自治を進めていく上で、街の歴史と文化は非常に大切。デジタル化の時代で、全国民に同じサービスが提供できればいいという意見も増えているが、街なりの自然、文化歴史が地域に対する愛着を作っている。歴史を感じられる仕組みが必要だと市長になって思う。一方で、デジタル化は歴史や文化を味わうために非常に便利な手段。先生方の知恵も借りながら、市民の皆さん、子供たちが生の資料にアクセスできるデータベースの作成に挑戦したい。

#### 4 事務局職員の紹介

#### 5 記念撮影

(市長退席)

#### 6 会議

- (1) 委員長の選出・就任の挨拶
- (2) 委員長より、委員の出席状況、傍聴者の有無、会議要旨の公開について報告した。
- (3) 事務局より、三鷹市史編さん委員会の概要について説明を行った。

#### 7 議題

- (1) 三鷹市史編さん基本方針（案）について

【土屋委員長】現時点での事務局の考え方に対して忌憚のないご意見をいただき、反映する形で方針を確定させていきたい。

（事務局より、三鷹市史編さん基本方針（案）について説明を行った。）

【A委員】一般向け冊子まんが版・紙版は令和17年刊行とあるが、デジタルで少しづつ出すことは考えているか。

【土屋委員長】資料編、通史編が一通り終わった段階でまんがを描くイメージかと思う。

【大朝部長】成果物として最後にハンディなもの、分かりやすいものを紙で出すイメージを今は持っているが、逐次公開やアーカイブで出すことも含めて、今後の議論の中で柔軟に考えていきたい。

【B委員】今後の時代情勢や、より多くの方々の目に触れるという意味では、ウェブ上に公開するはあると思う。ただ、民俗調査など個人情報を含むものは、特定の個人が不利益を被らないように公開制限をかけないといけない。

21世紀の市史編さんでは戦後史をどう収集・公開するかが注目されている。そのための基本資料は行政文書であり、役場文書や府内刊行物の現況や活用方法を調査することで、戦後の三鷹の歩みを具体化できると思う。

公開の仕方、市民への情報提供に関して、立川の場合は『立川ものがたり』として分かりやすい文章で隨時市民に進捗報告とともに資料提供を呼び掛けている。

行政資料、商店の帳簿などの民間の資料、写真資料、様々な資料群を広く着目して収集すると、豊富な三鷹の歴史が解き明かせるのではないか。

【土屋委員長】行政文書は膨大で時間が掛かるが、適切な形でしっかりとピックアップを行う。公文書館の代わりになる形での集積もあるかもしれない。成果を順次公開し、それを見て寄せられた資料を随時更新できるのがデジタルアーカイブのメリットだと思う。編さん方針の中にご意見をどう盛り込んでいけるか、また編さん方針自体も分かりやすい市史と言いながら堅苦し過ぎるとも思うので改めて検討したい。

【C委員】「収集した資料や調査成果等は、デジタルアーカイブに格納し」とあるが、基本的には収集した原資料をどう保存するのかを方針に含むことが重要。資料を残すのはよいが、何

年が経ったら違う記録方法も出てくるのでは。原資料には紙に書いた文字情報だけではない情報も含まれているという視点も忘れないで欲しい。

市民との協働は大賛成だが、どんな関わりを考えているのか。パブリックヒストリーや字誌(あざし)といった視点も加味しながら進めた方がよい。

【大朝部長】資料提供の問い合わせが既に出始めているので、そのようなコミュニケーションは必要だなっていう面と、デジタルのメリットを生かし、子どもたちの調べ学習や趣味で調べた物等も寄せられるようにするといった市民参加のアイデアは出ている。

生涯学習課の「三鷹まるごと博物館」事業では、今年から、地域の歴史を学んでまち歩きする事業を字単位で段階的に始めている。これらも市史編さんに生かしていきたい。単なる講演会や報告にとどまらず、双方向性のある市民協働ができると市史が身近になると思う。

【土屋委員長】歴史記述の在り方と市民の皆さんとの調べ物をどうリンクしていくのか。精度の担保が難しいが、課題を乗り越えていくやり方があれば。

【C委員】D委員はそういう視点で研究されているかと思うので知見を伺いたい。

【D委員】その前にお聞きしたいが、最終的に刊行される紙版の刊行形態や冊数はどういった想定なのか。

【大朝部長】八王子市や立川市のように複数冊になる場合もあるし、河村市長はデジタル主体で、紙で出すのは非常にハンディなものと強く考えているが、それで全部済むかどうかという議論も行う必要がある。

【D委員】普通は古代編、中世編、近世編と各1冊2冊と紙として出すイメージだが、そういうこともまだ決められていないのか。

【大朝部長】紙の本になるのかどうかという議論は多少曖昧だが、内容のまとめとして1冊の本と同じような分量で従来通りまとめていくことは変わらない。

【土屋委員長】ざっくりとしたイメージだと、専門部会ごとに通史編が各1分冊と想定している。資料編は、時代ごとに資料の多さが相当違うのとデジタル主眼で進めようとしているので、別の分量・構成になるかと思う。

【D委員】以前の2回の三鷹市史は政治史・行政史を中心に作られており、今度の市史は最初から社会史的な面を意識して作った方がいい。

市民との協働で言えば、市史編さん協力員みたいな名称で各町内会・学校区単位で参加者を呼び掛けてもよいかと思う。それと、早急にいろんなテーマを作って、聞き取り調査を精力的に意識してやるとよい。

普及啓発の所では、写真等が集まつたら展覧会を開く、また、勉強会を開くなど、市史を作った後のアフターケアも積極的に考えるとよい。

【土屋委員長】過去2回出している三鷹市史あまり取り上げられていない、特に古い時代も含めて、厚みのある市史をということで今回全体を見直すという経緯があるので、どういった形で編集方針に取り入れるか検討させていただきたい。聞き取りまではいかないが、市内の蔵の調査に着手しており、色々な資料が出てくると思うのでしっかりと収集していきたい。

【大朝部長】聞き取りでいうと、『三鷹の民俗』のように市史に生かしきれてない資料もある。新規に調査する部分もあるし、過去の調査の再編・再評価も必要だと考えている。

【E委員】やっぱり市史を作ったら終わりじゃない。行政文書をどう残していくかというと公文書館機能を持たなきやいけない。文化事業をちゃんとやらないと歴史が何も残らなくなる。公文書館機能を含めた資料室を常設して、専門職が調べ物に対応できるようにしないと市民には還元できない。

日常的に市史を動かしていくのは委員ではなく事務局の職員。だから、専門的な知識を持つ人を専任で置いていただきたい。何年契約でやると、せっかく三鷹市の知識を持った宝物を捨ててしまうことになる。こうした体制を整えて、市史編さんと公文書を含めた資料保存体制、公開体制を考えていくのがいい。

3 市史編集方針 (3)「三鷹らしい市史」とあるが、この前の段に書いてあることは当たり前のこと、これをやつたからといって三鷹らしい市史にはならない。安直な言葉の使い方だと思う。(1)「使いやすい市史」も定義が何もない。何となくいいことを書いてると思わせるような使い方で、再検討いただきたい。

【土屋委員長】その辺りの言葉の使い方は考える。

【E委員】市史編さんをやると物が増える。部会の会議場所も必要。ぜひお願いしたい。

【土屋委員長】これまで文化財の予算がなかなかつきにくいのは事実だったかもしれないが、市史編さん事業をきっかけに取り戻したい。ぜひ頑張らせていただきたい。

【F委員】いや、金かかるなと思って。大変だなど。自治体等だと近世（以降）の資料は毎日捨てられている状況にある。どうやつたら膨大な資料が保存できるのかを考えなくてはならない。もう本当に大変だろうなど。頑張ってください。

どういう形で我々が仕事をするのかが今のところ正直雲をつかむような形になっているので、謝礼をどうする等の話は具体的に考えないといけない。

【土屋委員長】職員にも負担かけちゃいけないしというのがあって。今はアドバルーンをあげさせてもらいますけども、どこかで現実を見てできる範囲を考えていかざるを得ない。その部分はぜひご理解いただきたい。

専門部会での作業内容や謝礼については、次回までに事務局で案を作つてまた議論させていただきたい。

【大朝部長】今年度もう1回、2月ごろに会議を開催して市史編さん方針をまとめたいと思っているが、もう少し検討が必要であれば来年度も先生方のご意見を聞いたり、さらに編集会議や調査員等の意見を聞いたりして少しづつ改変していくこともある。

【土屋委員長】土蔵の調査や未刊行の発掘調査報告書作成といった予備作業を進めながら、今後の活用も見据えた方針を時間をかけて検討してもいいかとも思う。また、皆さんのが状況を共有できるような資料の作り方も勉強させていただきたい。

【G委員】市史を利用する立場から話すと、どこの図書館に行っても、市史や区史が並ぶ通路には誰もいない。

市史には行政境の視点が抜け落ちている。例えば、三鷹市と調布市にまたがる大日本航空中央研究所などの研究がされてない。今回はそれも解明していかなければと思う。

もう1つは、途中経過を継続的に広報していくこと。また、協力員も含めて各所に協力を求めながら子供たちに興味を植え付けていかなければ、市史を作つてもできただけになる。

【土屋委員長】F 委員がおっしゃる通り市史はお金が掛かる作業で、毎年必要な予算を得るためにには市民への説明責任が必要になる。結果を見せ、目標を見せながらプロセスを説明して、興味を持って共感してもらえる努力をし、子供たちに关心を持ってもらう方法を考えていく。

【大朝部長】まさに市自体に還元されていく活動だと思うので、ずっとやらなきやいけないなと思う。方法については先生方の知見を教えていただくとともに、私たちが今まで他の公開事業で培ってきたノウハウも使っていきたい。

【土屋委員長】協力委員という意見が出たが、当然作るつもりである。郷土史研究、生涯学習との連携協力もやっていく。

【H委員】以前の職場は公文書、古文書、私文書の保存と情報公開、庁内刊行物を一手に管理するという全国的にもモデルケースで、自治体史編さんの上がりの形としても情報公開のあり方としても理想的だといわれてきた。確かにハードは素晴らしいが、専門性のない職員を異動で配置して、専門的な仕事は会計年度任用職員がおこなっており、蓄積されたノウハウが引き継がれず、質が落ちたと言われている。上がりの形とその後の運営の仕方を考えることが大事。デジタルアーカイブ管理の職員は非常勤だったが、仕事時間中にできず家に持ち帰って、それでも追いつかない。デジタルにしたら楽になるっていうものでは決してない。

いち歴史学研究者としては、ずっと命を保ち続けるのは資料編だと思う。通史編はそれぞれの時代の歴史研究の発展によって書き換わることもあるが、1回作った資料編はずっと参照できる。お金の問題もあるとは思うが、自身を含めて紙じゃないと読んでいる実感がないという人は多いと思う。周辺自治体等に配る分だけでもいいので、ある程度刷ったものがあると嬉しいなと利用者としては思う。

【土屋委員長】ちょうど今人事制度の転換期で、三鷹市でも割と専門職の採用もするようになってきた。我々もこの分野でも専門職が必要なんだと主張していくというのはあり得る。資料編をちゃんと作ろうと、職員間でも意識を共有したい。

【I 委員】今の構成は資料編と通史編と別冊があってオーソドックスだが、もっと新しいアプローチがあるかと思う。原始・古代、中近世、近現代、民俗学、自然、文学・文芸とあるが、もっとインテグレーションできるのでは。あるいは、逆さまにして現代から振り返ってみる歴史の見方もある。インテグレーションという意味で、デジタルアーカイブは良いと思った。

【土屋委員長】部会のあり方については、もう少し我々も議論が必要だと思っている。

先生の仰るインテグレートということもディスカッションしてもいいかもしない。

【大朝部長】他自治体を参考にして作ったというのもあるし、実際に調査・執筆する方々を集めてグループにして、代表者がマネジメントしてと考えていくと、こういう方が分かりやすいかとも思う。部会の構成と成果物としての章立てを1回切り離して考えてもいいのかもしれないし、地続きだということであれば部会の持ち方自体を考え直してみるとある。

【土屋委員長】年表としてまとめた資料は、時代区分ごとの日本全体、昔の地域、そして三鷹市として特徴的な物をまとめた一覧表である。イメージを共有できるように精緻に作り直して、その上で章立てや巻分け、部会分けの提案を次回させていただきたい。

【E 委員】実際に資料を集めて編集する立場から言うと、専門分野というのは決まっている。だから大朝部長が仰ったような現在の形になったのだと思う。それと最終的なフォームを作る

のとはまた別としていいと思う。そんな例はたくさんある。それは編集会議で議論すればいいのかなと。専門分野があるのは学芸員もそうで、それこそ職員が大変なので、やっぱりちゃんと文献の学芸員を雇っていかなくてはいけない。

【土屋委員長】作業してもらうところと最後の見せ方をどう結び付けて考えていくか。

【E委員】そうですね。それは後々考えればいい。

【C委員】一覧表の中で何層かになっていると思うが、できれば昔の旧村の大字単位ぐらいで作る方が市民が親しみ持てると思う。郷土史家等の功績も取り入れて、住んでる人からの情報を得ながら構成立てを作っていくことができると思うので、ここを工夫すると三鷹らしい特色が出ていいのかなと。

【事務局】三鷹らしいとは地域に根ざしていることだと理解している。やはり地域に根差すのは大字という単位だと思う。

## (2) 事業計画と報告

【事務局】資料5に挙げたものは、予備調査として今年度と来年度前半くらいまでに着手する予定のものである。既に新しい資料が集まりつつある中で、整理して着手していかなければと思っている。特に先ほど話があった社会史的な聞き取りでは、近現代専門部会の中で市内の集合住宅調査、市内には関東地方で一番古くできた牟礼団地があるので、こういうものを進めていければと考えている。

【土屋委員長】資料5については、これからお願いしようと勝手に名前を挙げさせていただいている。この点はご理解いただければと思う。

【D委員】広報の話で、昨日偶々大学の授業で、自分が住む自治体の広報紙を見て政策やどんな雰囲気作りをやっているか調べなさいという課題を出した。70～80人の学生がいる中で、以前から広報紙を読んでいる人は一人だけだった。また、町内会や自治会の思い出を書きなさいと言うと、小学生の時だけの話になる。つまり中学校を卒業すると同時に、地域社会からは切り離されていると感じる。通常の「広報みたか」だけだと反応してこない、10代の半ば位の人たちをどう取り込むかを考えてもよいのではないか。

## 8 その他

次回の日程について、日程が確定次第案内する旨を伝えた。

—閉会—